

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和6年度第2回高松市コンパクト・エコシティ推進懇談会
開催日時	令和6年11月25日(月) 14時00分～15時00分
開催場所	高松市役所11階 114会議室
議 題	(1) 立地適正化計画の改定ポイントについて (2) 多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画の改定ポイントについて (3) その他 ・高松市都市計画マスタープランの改定ポイントについて ・「高松市のまちづくり」に関する委員の皆様へのヒアリング結果について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	嘉門会長、森永委員、杉本委員、九十九委員、土井委員、中橋委員、吉田委員、吉村委員、鈴木委員、永原委員
オブザーバー	香川県 土木部 都市計画課 課長補佐
傍聴者	2名(定員 10名)
担当課及び連絡先	都市計画課 TEL: 087-839-2455

会議経過及び会議結果

(1) 事務局から、「立地適正化計画の改定ポイントについて、多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画の改定ポイントについて及び高松市都市計画マスタープランの改定ポイントについて」について説明を行った。

(九十九委員)

事前意見を反映していただき、大変ありがたい。

一点気になったこととして、防災関係のデジタル技術に関する記述があるが、IoT や ICT といったデジタル技術を、防災分野だけではなく、次期計画策定検討といったところにも、活用できないか。

(事務局)

本市ではデジタル基盤というものを作成しており、この基盤は、インフラや建物等の基礎的な情報に加え、いろいろな動的な情報を集める機能を有している。

おっしゃる通り、本市としても、こういったところで取得したデータを使い、エビデンスの精度を上げながら、将来のまちづくりに生かしていきたいと考えている。

今回のご意見も参考にさせていただきながら頑張りたいと考える。

(九十九委員)

今回の冊子については、プランという形で出させていただいているが、フィードバックをかけられるような仕組みがあれば、次期計画が進められるのではないかと感じた。

(嘉門会長)

災害時でも情報インフラが整っていれば、帰宅困難になっても情報を収集できるので、通信網の拡充といった施策を防災指針に掲載することも検討してもらいたいと思う。

イタリアでは防災時に48時間以内にテント、トイレ、キッチンが準備できるといった基準を設けて災害に備えている。大規模災害への事前の備えについても考えてもらいたい。

防災指針を充実したものにしてもらいたいと思う。

(森永委員)

高松市都市計画マスタープランの「まちづくりの施策」を多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画に移行するという話について、多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画をみたところ、大項目8「実現に向けて」の中に1番から7番までの小項目が立ててある。

「まちづくりの施策」の移行は、どこかの小項目に入り込むという形か、それとも別途項目を追加する形なのか。

(事務局)

多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画に掲載されている施策を追加して、高松市都市計画マスタープランの「まちづくりの施策」の掲載を想定し、検討している。

(嘉門会長)

新たに項目を追加するのはバランスが悪いように感じる。今回は改定のポイントの説明であったが、次回には改定案が出てくることが想定されるため、その際にどのように記載されたか確認したい。

(中橋委員)

一般香川県教育委員会主催の高校のあり方検討委員会の委員をしているが、来年度の香川県内の高校生と、令和20年度の高校生の人口比をエリアごとに算出した結果、高松では35%程、高校生の人数が減ってしまうというデータを見た。

ここから、高松市内の高校も、統廃合が予見され、学校の数が減ると、スクールバスの検討やそれに付随した道路整備が必要になる。

このようなことから、それぞれのエリアの年齢別の人口予測や昼間人口と夜間人口の人口比較みたいなものが出ると、また違った目線で計画を見なおせるのではないかと考える。

(2) 事務局から、「高松市のまちづくりに関する委員の皆様へのヒアリング結果について」に掲げる施策等の進捗状況について説明を行った。

(嘉門会長)

SNS や YouTube で高松市の取組みを定期的に発信してはどうかとの意見が出ているが、市としての考えはあるか。

(事務局)

「LINE」や「X」を通じての発信に取り組んでいるところであるが、登録者数が伸びていない実態がある。

SNS の活用は重要であると認識しているが、うまくデザインできていないのが現状である。
今後は、発信の仕方を洗練し、周知・広告に努めたいと考えている。

(永原委員)

誰が発信するかによって、興味の持ち方が変わることもあると考える。

1 つ提案として、この会が終わるたびに集合写真を撮り、報告を上げるなり、また、委員の方からも、各自発信をしていただくと、少しずつ輪が広がるのではないかと考える。

(3) その他

事務局から次回の懇談会の日程について説明を行った。

以上をもって、今回の会議を閉会することとした。

以上